

エソタ



笑福亭 たま

落語家は他の芸能と違い、素人さんから芸論をぶっつけられることが多い。そして多くの場合、「枝雀師匠も言うてた！」か「談志師匠も言うてた！」のどっちかをお見舞いされる(笑)。落語家になって二十年以上たつが、桂枝雀師匠の「緊張と緩和」と立川談志師匠の「落語は人間の業の肯定」は「土用の丑の日」は、平賀源内が考えた「ぐら」をよく聞く言葉だ(ちなみに平賀源内の説は根拠が乏しいらしいが…)。

文楽・能・狂言・歌舞伎・楽器演奏などでは、素人がプロにあまり物申さない。それは素人には簡単に獲得できない技術が明らかに存在する

■ ソーシャルディスタンス ■

らだ。しかし、落語は喋りだけで簡単そうなので、素人がスグに技術論や芸論で挑んでくる。しかも勝つ気で(笑)。

実は料理と一緒に、誰でもできる割に、料理屋を生業とするのは難しいみたいな話なのだが、素人さんからすれば、多くの噺家は「商売になってなさそう(貧乏そう)」なので、マウントを取りたくなくなるのかもしれない(笑)。そしてその時に「売れてない噺家」をやっつける伝家の宝刀が「枝雀と談志」だ。落語家は当然、枝雀と談志の弟子ばかりではない。自分の師匠から受け継いだ芸を進化させようと努力する個人事業主なので、枝雀理論や談志理論に共感する部分はあるけれども、完全に信奉してゐるわけではない。

時には人間関係に必要

しかし、素人さんに向かって「その理論を私は採用してない」などと言え、その系譜の一門に失礼(営業妨害)になるし、素人さんからしても「偉大な名人を否定するとは、この愚か者！」と言われてしまう。だから素人さんから枝雀談志の両師匠の名前を出してウンチクを語られると、私は、ただただスポンの膝の上あたりの布を両手で握りしめてうつむくだけになる…(笑)。

一方、全く落語に興味のない



カメラと社会的距離を取る筆者

い素人さんは悪気なく「テレビによく出て○○師匠って、落語おもしろいですか？」と聞いてく

る。本当に困る。ハッキリ言って「自分で見ろ！」だ。私が「面白い」と言っても、後でその人の好みに合わなかったら悪いし、「面白くない」と言えば営業妨害になる。いっそ「ちょっとお！心のソーシャルディスタンスを取ってくださいよー」と言うてみただけでいい。余計に怒られそうやけど、社会的距離も大事だが、人間関係には、心の社会的距離も必要な気がする。

(落語家〓次回掲載は十月